

プライバシーに関する社会的トピックの整理¹

佐藤 広 英 (信州大学)

太幡 直 也 (愛知学院大学)

Classification of privacy-related social topics

Hirotsune Sato (Shinshu University)

Naoya Tabata (Aichi Gakuin University)

要 旨

本研究の目的は、プライバシーに関する社会的トピックの内容を整理すると共に、その性差、年代差を検討することであった。クラウドソーシングを用いて調査対象者を募集し、最終的に788名の回答を分析対象とした。その結果、次の三点が明らかになった。第一に、全体として、個人情報が無断で他者に収集・利用されることに関する社会的トピックへの関心が高いことが示された。第二に、男性においては、仕事に関わる状況でのプライバシーと関連する社会的トピック、女性においては日常生活でのプライバシーと関連する社会的トピックへの関心が高いことが示された。第三に、30代以下、40代では個人情報を無断で他者に収集・利用されることに関する社会的トピック、50代以上では世間一般的なトピックへの関心が高いことが示された。

キーワード：プライバシー、社会的トピック、性差、年代差

問 題

プライバシーとは、他者に対する自己情報の伝達を統制した状態と定義される (Altman, 1975)。1980年に OECD (経済協力開発機構) でプライバシーガイドラインが採択されて以降、インターネットや SNS (social networking services) の普及とともに、プライバシーへの関心は世界中で高まっている。2013年には OECD プライバシーガイドラインが改正され、情報通信技術の進展による個人情報の爆発的な増加に対応する形でプライバシー保護に関するガイドラインが示されている (堀部・新保・野村, 2014)。さらに、EU では、個人情報やプライバシー保護を厳格に規定する法として、GDPR (General Data Protection Regulation: 一般データ保護規則) が2018年に施行されている。日本においても、2017年5

¹ 本研究の一部は、日本教育心理学会第62回総会 (オンライン開催) において発表された。

月に改正個人情報保護法が施行され、個人情報の定義が明確に定められると共に、個人情報の利用に対する規制が強化されている。以上のように、プライバシーに関する法制度の整備が進んでいることから、プライバシーへの関心が世界中で高まっていることが伺える。

プライバシーへの関心の高まりは、必ずしも法制度だけではなく、プライバシーを失うことへの不安（プライバシー懸念）という面からも伺える。総務省（2017）の平成29年度版情報通信白書によると、日本においては、個人情報の提供について「不安を感じる」という回答の割合は84.1%にのぼり、特に、「口座情報」「個人識別番号」「生体情報」「氏名、住所」「位置情報、行動履歴」「連絡先」に対する不安が高いことを明らかにしている。また、金森・佐藤・太幡・野島（2016）は、自己情報に対するプライバシー懸念を測定する尺度（佐藤・太幡，2013）を用いて、2010年と2015年の経年比較を行っている。その結果、名前など個人を特定可能な情報である識別情報や、クレジットカード番号などの暗証情報に対するプライバシー懸念は、2010年時点から非常に高く、2015年においても大きくは変わらないのに対し、性別や出身地などの属性情報や過去の出来事などの自伝的情報に対するプライバシー懸念は、2010年から2015年にかけて増加していることを示している。

このようにプライバシーへの関心が高まる中、プライバシーに関する心理学的研究も多数行われている。従来のプライバシーに関する心理学的研究では、プライバシーに関するさまざまな個人差の測定に関する研究（e.g., Baruh & Cemalcilar, 2014; 佐藤・太幡, 2013; 太幡・佐藤, 2014）や、プライバシー懸念とセキュリティ行動との関連に着目した研究（Debatin, Lovejoy, Horn, & Hughes, 2009; Taddicken, 2014）などが行われている。これらの研究では、プライバシーに関する人間の意識や行動を明らかにすることを目的としている。

一方、プライバシーに関して、一般的にどのような社会的トピックに関心もたれているかという点に着目した研究は行われていない。さらに、プライバシー懸念には性差や年代差があるとされる（e.g., 佐藤・太幡, 2018）ことから、各性別や年代に特徴的な社会的トピックも異なる可能性が考えられる。

そこで、本研究では、プライバシーに関する社会的トピックの内容を明らかにするため、クラウドソーシングサービスを用いて幅広い年齢層を対象とした調査を実施する。そして、各調査対象者の身の回りのプライバシーに関する社会的トピックの内容を整理するとともに、その性差、年代差を検討する。本研究を通して、プライバシーに関してどのような社会的トピックに関心もたれているかを明らかにすることができると共に、性別や年代に特徴的な社会的トピックを明らかにすることができると考えられる。

方 法

調査対象者

Yahoo!クラウドソーシングを用いて調査対象者を1,000名募集し、ウェブアンケートへの回答を求めた。調査は、2019年10月5日に実施した。「特にない」という回答や質問と関係のないと思われる回答を除き、最終的に788名（男性485名、女性301名、その他2名、年齢： $M = 46.05$, $SD = 10.55$ ）の回答を分析対象とした。

質問項目

Yahoo!クラウドソーシング上のウェブ調査画面において、性別と年齢を尋ねる項目と共に、プライバシーに関する社会的トピックについての質問項目を設定した。具体的には、「あなたの身の回りにあるプライバシーに関する社会的トピックと思われる出来事を教えてください。身の回りで思いつく出来事がなければ、あなたが一番関心を寄せているプライバシーに関する社会的トピックをお書きください」という教示文のもと、自由記述形式で回答を求めた。

データの処理

788件の回答について、第一著者が同一内容のものをまとめた。そして、第一著者と大学生1名（男性、21歳）が内容の類似性を基に独立してカテゴリー分類を行った。その結果、その他を含む11カテゴリーに分類された。なお、一致率は91.2%であった。一致しなかった発言内容については、分類を行った2名の合議の下でカテゴリーを決定した。

結果と考察

プライバシーに関する社会的トピックの分類

カテゴリー分類の結果、プライバシーに関する社会的トピックは、「他者からのプライバシー侵害」「企業による情報流出」「個人情報の被収集」「生活環境でのプライバシー懸念」「マスコミ、犯罪・事件に関わるプライバシーの問題」「個人情報の不正利用」「他者からの被詮索」「法律・制度上の問題」「過剰なプライバシー意識への不満」「プライバシーポリシーへの不満」「その他」の11カテゴリーに分類された。各カテゴリーの例と度数を Table 1 に示した。なお、各カテゴリーの具体的な回答については、Appendix に示した。

「他者からのプライバシー侵害」は、無断で写真・動画撮影することやそれを SNS に投稿することなど、自分が意図しないところで、無断で情報公開されることに関する回答が分類された。「企業による情報流出」は、企業や電子決済など各種サービスにおける顧客情報の漏洩に関する事件や漏洩に対する懸念などが分類された。「個人情報の被収集」は、位置情報や購入履歴、アクセス履歴といった情報を収集されることに対する懸念などが分類された。「生活環境でのプライバシー懸念」は、家の表札や病院での名前呼び、ゴミ袋の中身など、身近な生活環境における個人情報に対する懸念などが分類された。「マスコミ、犯罪・事件に関わるプライバシーの問題」は、マスコミによる被害者の実名報道や芸能人のプライベートへの介入など、マスコミや犯罪・事件に関わる内容が分類された。「個人情報の不正利用」は、リクナビの内定辞退率の提供に関する事例や名簿業者など、個人情報の不正利用に関連する内容が分類された。「他者からの被詮索」は、結婚や恋愛、家族環境に関する詮索など、周囲からプライベートな内容を直接詮索されることへの不満などが分類された。「法律・制度上の問題」は、マイナンバー制度、香港の覆面禁止条例など、プライバシーに関する法律・制度に対する不満が分類された。「過剰なプライバシー意識への不満」は、プライバシーへの過剰な対応によるトラブルや不満が分類された。「プライバシーポリシーへの不満」は、長すぎるプライバシーポリシー（企業やサービスにおける個人情報保護に対する指針）に対する不満が分類された。「個人情報」や「SNS 投稿」といった抽象的で分類で

きない回答は、すべて「その他」に分類した。

全体としては、「他者からのプライバシー侵害」、「企業による情報流出」、「個人情報の被収集」の言及率が高かった。これらはすべて、個人情報を無断で他者に収集・利用されることに関する社会的トピックである。総務省（2018）によると、SNS上でのトラブル経験の上位に、「自分の意思とは関係なく、自分について（個人情報、写真など）他人に公開されてしまった（暴露）」、「自分は匿名のつもりで投稿したが、他人から自分の名前を公開されてしまった（特定）」といった、個人情報を無断で他者に収集・利用されることに関する内容が挙げられている。個人情報を無断で他者に収集・利用された経験が多いことが、これらのトピックが全体として言及率が高かった背景にあると考えられる。

続いて、「生活環境でのプライバシー懸念」の言及率が高かった。「他者からの被詮索」も含め、インターネットやSNSの場面だけではなく、日常の他者とのコミュニケーション場面に関する内容も挙げられていた。Westin（1967）は、個人がプライバシーを志向する状況の一つとして、「遠慮期待（他者からの深いかかわりを遠慮したいという態度）」を挙げている。他者からの過剰な詮索を受けたとき、我々はプライバシーの侵害を経験することになると考えられる。このように、プライバシーに関する社会的トピックは、インターネットやSNSの場面に限定されるものではないといえるだろう。

Table 1 プライバシーに関する社会的トピックのカテゴリーごとの割合（%）

カテゴリー名	回答例	割合
他者からのプライバシー侵害	「自分の写真を勝手に SNS に投稿される」	18.1
企業による情報流出	「顧客情報の漏洩事件」	15.5
個人情報の被収集	「位置情報を勝手に収集される」	14.1
生活環境でのプライバシー懸念	「表札」「ゴミ」「送り状」	9.4
マスコミ、犯罪・事件に関わる問題	「芸能人のプライバシーが保たれない」	8.6
個人情報の不正利用	「迷惑メールが大量に来る」	6.5
他者からの被詮索	「家族構成や結婚状況を聞かれる」	5.6
法律・制度上の問題	「マイナンバー自体がプライバシー侵害」	4.6
過剰なプライバシー意識への不満	「プライバシーに神経質になりすぎ」	2.9
プライバシーポリシーへの不満	「利用規約を読むのが面倒」	5.1
その他	「個人情報」「特に思いつかない」	14.1

プライバシーに関する社会的トピックの性差、年代差

各カテゴリーの回答と性別、年代との関連を検討した。分析にあたり、度数の少ない「プライバシーポリシーへの不満」と「その他」は除外した。また、性別については、「その他」と回答した2名の回答を除外した。年代については、サンプルの分布に合わせて、30代以下（ $n = 171$ ）、40代（ $n = 250$ ）、50代以上（ $n = 242$ ）に分類して分析に用いた。性別ごとの各カテゴリーの言及率を Table 2、年代ごとの各カテゴリーの言及率を Table 3に示した。

性別については、有意な関連がみられた（ $\chi^2(8) = 31.38, p = .00, V = .22$ ）。残差分析の結果、男性では「企業による情報流出」「個人情報の被収集」「法律・制度上の問題」の

Table 2 性別ごとの各カテゴリーの言及率 (%)

カテゴリー名	男性 (n = 403)	女性 (n = 260)
他者からのプライバシー侵害	19.4	24.6
企業による情報流出	20.6	14.2
個人情報の被収集	19.1	12.3
生活環境でのプライバシー懸念	7.2	17.3
マスコミ, 犯罪・事件に関わる問題	8.7	12.7
個人情報の不正利用	7.7	6.9
他者からの被詮索	6.2	7.3
法律・制度上の問題	6.9	3.1
過剰なプライバシー意識への不満	4.2	1.5

注：期待度数よりも有意（5%水準）に多い／少ないセルに下線を付した。

Table 3 年代ごとの各カテゴリーの言及率 (%)

カテゴリー名	30代以下 (n = 171)	40代 (n = 250)	50代以上 (n = 242)
他者からのプライバシー侵害	30.4	22.8	13.6
企業による情報流出	17.5	18.4	18.2
個人情報の被収集	15.8	15.2	18.2
生活環境でのプライバシー懸念	10.5	10.4	12.4
マスコミ, 犯罪・事件に関わる問題	9.4	7.2	14.0
個人情報の不正利用	8.2	6.4	7.9
他者からの被詮索	2.3	10.4	5.8
法律・制度上の問題	4.1	6.8	5.0
過剰なプライバシー意識への不満	1.8	2.4	5.0

注：期待度数よりも有意（5%水準）に多い／少ないセルに下線を付した。

言及率が女性よりも有意に高く、女性では「生活環境でのプライバシー懸念」の言及率が男性よりも有意に高かった ($p < .05$)。男性においては、仕事に関わる状況でのプライバシーと関連するトピック、女性においては日常生活でのプライバシーと関連するトピックに対して関心が高いと考えられる。男性において女性よりも仕事に関わる状況でのプライバシーと関連するトピックに対して関心が高かった理由としては、就労環境の違いが反映された可能性が考えられる。男女共同参画局（2017）によると、女性の就業率は増加傾向にあるものの、2016年時点で15～64歳の就業率は、男性で82.5%、女性で66.0%である。男性の方が仕事に関わる状況でのプライバシーに関するトラブルや問題に遭遇する機会が多いため、関心が高かったと考えられる。一方、女性において男性よりも日常生活でのプライバシーと関連するトピックに対して関心が高かった理由としては、日常生活でのプライバシーに関するトラブルや問題への遭遇機会の違いが反映された可能性が考えられる。男女共同参画局（2017）によると、特定の相手から執拗なつきまとい等の被害経験がある者の割合は、女性10.9%、男性4.5%である。このことから、女性の方が男性よりも日常生活でのプライバシーに関するトラブルや問題に遭遇する機会が多いため、関心が高かったと考えられる。

次に、年代についても、有意な関連がみられた ($\chi^2(16) = 31.84, p = .01, V = .15$)。残差分析の結果、30代以下では「他者からのプライバシー侵害」、40代では「他者からの被詮索」、50代以上では「マスコミ、犯罪・事件に関わる問題」の言及率がそれぞれ高かった ($ps < .05$)。30代以下、40代では個人情報を無断で他者に収集・利用されることに関する社会的トピック、50代以上では世間一般的なトピックへの関心が高いと考えられる。特に、30代以下では、「他者からのプライバシー侵害」を挙げる割合が3割を超えていた。前述のように、「他者からのプライバシー侵害」は、無断で写真・動画撮影することやそれをSNSに投稿することに関するカテゴリーである。総務省(2019)によると、2018年時点におけるSNSを利用する割合は20代(78.5%)が最も多く、30代(74.8%)、40代(70.6%)、50代(59.8%)と徐々に利用率は減少していく。30代以下においては、他の年代よりもSNS利用率が高いため、個人情報を無断で他者に収集・利用された経験が有する者が多く、関心が高かった可能性が考えられる。

本研究のまとめと今後の課題

本研究では、プライバシーに関する社会的トピックの内容を整理すると共に、その性差、年代差を検討するため、自由記述式調査を実施した。そして、カテゴリー分類の結果、次の三点が明らかになった。第一に、全体として、個人情報を無断で他者に収集・利用されることに関する社会的トピックへの関心が高いことが示された。第二に、男性においては、仕事に関わる状況でのプライバシーと関連する社会的トピック、女性においては日常生活でのプライバシーと関連する社会的トピックへの関心が高いことが示された。第三に、30代以下、40代では個人情報を無断で他者に収集・利用されることに関する社会的トピック、50代以上では世間一般的なトピックへの関心が高いことが示された。

本研究の貢献として、プライバシーに関してどのような社会的トピックに関心をもたれているかを明らかにした点、性別や年代に特徴的な社会的トピックを明らかにした点が挙げられる。特に、日常生活でのプライバシーと関連する社会的トピックへの関心が高い点や、個人情報を無断で他者に収集・利用されることに関する社会的トピックへの関心が高い点を踏まえると、次の二点を重視したプライバシーに関する啓発が必要であると考えられる。第一に、日常生活でのプライバシーに関するトラブルや問題に対する啓発である。現在のプライバシーに関する啓発活動は、主にインターネットやSNSの場面を想定した情報教育において行われている(国立教育政策研究所, 2011)。しかし、実際には日常生活においてもプライバシーに関するトラブルや問題が存在しており、関心もたれている。具体的には、ゴミ袋への記名や中身の詮索、病院での名前呼び、店頭やウェブサイトなどへの名前の無断記載など多岐に渡る。今後は、インターネットやSNSの場面だけでなく、日常生活におけるプライバシーの侵害にも焦点をあてた啓発が必要であると考えられる。第二に、個人情報を無断で他者に収集・利用されることに対する啓発活動である。前述の通り、SNS上でのトラブル経験の上位には、個人情報を無断で他者に収集・利用されるトラブルが含まれる(総務省, 2018)。近年、こうした他者の情報を公開してしまう行為に着目した研究も行われている(Koohikamali, Peak, & Prybutok, 2017; 太幡・佐藤, 2019)。今後は、他者の情報を公開してしまう行為を抑制する要因を明らかにすることを通して、プライバシーに関する啓発へとつなげていく必要があると考えられる。

最後に、本研究で検討したプライバシーに関する社会的トピックは、社会状況によっても大きく変わると考えられる。今後も同様の調査を継続して行うことによって、プライバシーに対する社会的関心の推移を検討していくことも重要だと考えられる。

引用文献

- Altman, I. (1975). *The environment and social behavior: Privacy, personal space, territory, crowding*. Monterey, CA: Brooks/Cole.
- Baruh, L., & Cemalcilar, Z. (2014). It is more than personal: Development and validation of a multidimensional privacy orientation scale. *Personality and Individual Differences* 70, 165-170. doi: 10.1016/j.paid.2014.06.042
- 男女共同参画局 (2017). 男女共生参画白書平成29年版
<http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h29/zentai/index.html#pdf>
- Debatin, B., Lovejoy, J. P., Horn, A.-K., & Hughes, B. N. (2009). Facebook and online privacy: Attitudes, behaviors, and unintended consequences. *Journal of Computer-Mediated Communication*, 15, 83-108. doi:10.1111/j.1083-6101.2009.01494.x
- 堀部政男・新保史生・野村 至 (2014). OECD プライバシーガイドライン：30年の進化と未来
JIPDEC
- 金森祥子・野島 良・佐藤広英・太幡直也 (2016). プライバシー情報提供の可否に関する一調査
2016 暗号とセキュリティシンポジウム.
- 国立教育政策研究所 (2011). 情報モラル教育実践ガイダンス
<<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/jouhoumoral/guidance.pdf>>
- Koohikamali, M., Peak, D. A., & Prybutok, V. R. (2017). Beyond self-disclosure: Disclosure of information about others in social network sites. *Computers in Human Behavior*, 69, 29-42.
- 佐藤広英・太幡直也 (2013). インターネット版プライバシー次元尺度の作成 パーソナリティ研究, 21, 312-315.
- 佐藤広英・太幡直也 (2018). 高齢者におけるインターネット利用者の情報プライバシーの特徴
老年社会科学, 40, 271-282.
- 総務省 (2017). 情報通信白書平成29年版
<<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/pdf/index.html>>
- 総務省 (2018). 情報通信白書平成30年版
<<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h30/pdf/index.html>>
- 総務省 (2019). 情報通信白書令和元年版
<<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/r01.html>>
- 太幡直也・佐藤広英 (2014). プライバシー意識尺度の作成 パーソナリティ研究, 23, 49-52.
- 太幡直也・佐藤広英 (2019). Twitter 上での他者情報公開を規定する心理的要因：友人，知人に関する情報公開に着目して パーソナリティ研究, 27, 235-245.
- Taddicken, M. (2014). The 'privacy paradox' in the social web: The impact of privacy concerns, individual characteristics, and the perceived social relevance on different forms of self-disclosure. *Journal of Computer-Mediated Communication*, 19, 248-273. doi:10.1111/jcc4.12052
- Westin, A. F. (1967). *Privacy and freedom*. New York: Atheneum.

Appendix

各カテゴリーの回答内容（一部抜粋）

カテゴリー名	回答内容
他者のプライバシー侵害	自分が写っている写真が SNS に勝手に掲載，他人の映り込みを構わず動画を撮影／ネットでの身元さらし，インターネットでの個人を特定する行為，Twitter で実名等が晒されて拡散されてしまうこと／当たり前のように社員の電話番号や個人情報を他人に教える，前勤務先から個人情報が漏れている／ネットへの画像流出，本人承諾なしに流出する怖さがある／自分が写りこんだ写真を他人が勝手にネット上にアップする，Twitter で周りに写っている人が加工されずにそのまま投稿されている／個人名を挙げてのうわさ話を広める行為，噂好きによる他人の個人情報を広められる
企業における情報流出	Amazon における他人の購入情報が閲覧可能になった問題／7pay の不正利用問題／登録したサービスや会社のネットからの情報流出／ポイントカードに登録していた住所等の流出／信販会社の顧客情報漏洩／ベネッセ情報漏洩／大手通販会社が個人情報を流出した問題に対して誠意ある対応をするべき／企業などの管理する顧客情報などがハッカーなどにより漏洩する事件／キャッシュレス決済業者が、情報を正しく管理できるのか心配
個人情報の被収集	ビッグデータの収集として行動や購買の記録が集められていることが不安／スマホの位置情報や閲覧履歴などの収集／街中の監視カメラの多さが怖い／インターネットで調べたものが後にオススメされるのは少し怖い／アンケートサイトで生年月日を聞かれる。悪用されそう／ドライブレコーダーが増えて車で走行中に常時録画されているのが嫌だ／Google Earth で個人の家屋の状況が他人に知られてしまっている／キャッシュレス決済だと買い物の履歴がすべてわかってしまう／EC サイトの購入履歴の漏洩／健康診断の結果の提出／閲覧履歴を基に広告が表示されるので鬱陶しく思う
生活環境でのプライバシー懸念	ゴミ袋に書く住所や名前／病院で名前を呼ばれること／名前まで入った表札を掲げる事／地域の広報紙などで氏名や居住地域を載せること／郵便物が間違って届いてしまうこと／ゴミ袋を開けて漁られた／店頭で当選者の名前を貼り出す方法／買い物のときのキャッシュレス決済／企業ホームページ上での社員の紹介／家に勝手に上がり込んで来る隣人／自治会で勝手に作成される名簿等について／薬局の薬剤師が周りに聞こえる声で病状などを話す
マスコミ，犯罪・事件に関わる問題	テレビで報道される事件の被害者のプライバシー問題（顔写真や年齢など）／芸能人のプライベート写真を盗み撮りして記事にすること／人身事故にあった被害者を救出することなくスマホで写真に撮って拡散する／事件が発生するとネット上に犯人の写真・住所、家族構成などの個人情報が流失すること／未成年の犯罪で容疑者の顔がネット上やマスコミに公表されてしまった例があった／容疑者と間違えられた人物が SNS でネットに暴露されること／事件などの犯人特定のため、憶測に伴う個人情報の拡散／芸能人のスクープ記事。少年法で未成年時のことは非公開であるべき。
個人情報の不正利用	リクナビによる内定辞退率の提供／迷惑電話，迷惑セールスの情報源を断つ方法があるなら対処してほしい／公務員による地域住民の個人情報の悪用／不動産会社による個人情報の不正利用／なぜ違法に取得した個人情報を転売する業者が許されているのか／知らない会社からのダイレクトメールがくる／企業が顧客の個人情報や注文履歴・サイトの閲覧履歴等を無断で他の企業等へ提供していること／受験や成人の時期になると頻繁に勧誘の電話がかかってくる

他者からの被詮索	LGBTのような性別に関する認識／上司による勝手なアウトティング／病院や調剤薬局などで家族の病歴や治療歴を知られる不安／恋愛や結婚のことを聞かれる／子供の有無などを聞かれる／年収を聞かれる／独身の人にいい人見つけなさいという言葉を受けかけること／上司が予定をしつこく聞いてくる／病気についてしつこく質問する／性生活に関すること／行事に参加できないときに理由を求められる／公衆の面前で女性に年齢を尋ねること
法律・制度上の問題	マイナンバーのような秘匿性の高い情報の管理が企業によって違う／マイナンバーが流出して悪用されたりしないかどうか不安を感じる／マイナンバーで個人資産などの情報が国で管理されるのは不満がある／マイナンバーの存在自体プライバシーの侵害だ／香港の覆面禁止条例／どの職種ならプライバシーの侵害になるのか法律でしっかりと線引きをする必要がある／プライバシーと、防犯（公共）との関係が難しい
過剰なプライバシー意識への不満	プライバシーは保護されるべきだが行き過ぎるとギスギスした世の中になる／個人情報保護法により、クラブや団体での連絡ややり取りがしづらくなった／プライバシーの問題はあまり気にすると他人との距離が出来る／学校の連絡網が無くなり、メールやLINEでのやりとりになった事に不便を感じる時があった／個人的な趣味や家族でもプライバシーだからと遮られる／OB会の名簿が個人情報の流出のリスクを理由に配布されなくなったが、やり過ぎに感じた
プライバシーポリシーへの不満	プライバシーに関する規約が長すぎて読む気になれない／利用規約なども読み込むのもつい面倒で個人で対策するのは難しい／プライバシーに関する規約も会社ごとに色々あり、長すぎて読む気になれない

(2020年10月30日受理, 11月11日掲載承認)

